

製品名: Atg16 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07285**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG16L1
別名	ATG16L1; APG16L; Autophagy-related protein 16-1; APG16-like 1
遺伝子 ID	55054.0
SwissProt ID	Q676U5
免疫原	Atg16 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 60-140

背景

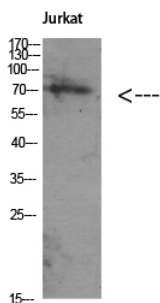
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞内成分をリソソームに送って分解する主要過程であるオートファジーに必要な大きなタンパク質複合体の一部である。この遺伝子の欠陥は、炎症性腸疾患 10 型 (IBD10) に対する感受性の原因である。この遺伝子

には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっている。 [RefSeq 提供、2010 年 6 月]、疾患:ATG16L1 の遺伝的変異は、炎症性腸疾患 10 型 (IBD10) に対する感受性と関連している [MIM:611081]。IBD は、慢性の再発性腸炎を特徴とする。IBD は、クローン病 (CD) と潰瘍性大腸炎の表現型に細分される。IBD10 患者は、CD に特徴的な表現型を示す。消化管のどの部分にも影響を及ぼす可能性があるが、最も頻繁に現れるのは末端回腸と結腸である。CD は一般的に自己免疫疾患に分類されます。機能: オートファジーにおいて重要な役割を果たします。配列注意: CDS の選択が誤っています。類似性: WD リピート ATG16 ファミリーに属します。類似性: 7 つの WD リピートを含みます。細胞内局在: プレオートファゴソーム構造 (PAS) に局在し、ATG5 の膜へのターゲティングに関与します。サブユニット: ホモオリゴマー。ATG5 と相互作用します。4 セットの ATG12-ATG5 と ATG16L1 (400 kDa) または 8 セットの ATG12-ATG5 と ATG16L1 (800 kDa) からなるマイナー複合体とメジャー複合体の一部です。、

研究分野

細胞生物学

画像データ



1:1000 希釈の抗体を用いた Jurkat のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。